

栄養学教育における情報教育のガイドライン

【到達目標 1】

ICTを利用して、栄養・食生活と健康・疾病に関する情報を収集・蓄積・分析に活用できる。

【到達度】

栄養・食生活と健康・疾病に関する情報の所在、構成、背景を理解し利用できる。
インターネットを用いて、栄養・食生活と健康・疾病に関する適正な情報を検索し、選別できる。
選別した情報をデータ化して、統計・解析ができる。
多様なICTを用いて、情報倫理に配慮した効果的なプレゼンテーションができる。

【教育内容・教育方法】

と は、情報検索を実施し、関連するWebサイトに接続させ、情報の収集及び蓄積方法の演習を行う。
は、問題解決のための情報を表計算ソフトなどを用いてデータ化したものを統計処理し、その結果の妥当性を評価・判定する演習を行う。
は、プレゼンテーションツールを用いて、引用や剽窃などに留意して、実習を行う。

【到達度確認の測定手段】

～ は、レポート（電子媒体）学修支援システムなどにより確認する。
は、栄養教材の作品を学生の相互評価を含め、確認する。

【到達目標 2】

栄養マネジメントに必要な専門的な情報活用ができる。

【到達度】

アセスメントに必要な基本情報を理解し利用できる。
基本情報をデータ化できる。
汎用アプリケーションソフトを用いて解析・評価できる。
栄養アプリケーションソフトを用いて、ケアプランを作成できる。
対象特性別アセスメント・ケアプラン情報を発信できる。
結果のモニタリング、評価、フィードバックにICTを活用することができる。

【教育内容・教育方法】

～ は、栄養データを用いて、汎用アプリケーションソフトを活用できる技術を修得する演習を行う。
は、栄養アプリケーションソフトを用いて、各種事例に対するケアプラン作成を体験させる。
と は、栄養アセスメント、ケアプラン、モニタリング、評価、フィードバックなどの栄養マネジメントに関する問題解決型学修法を用いた演習を行う。

【到達度確認の測定手段】

～ は、実技試験により確認する。
は、作成したケアプランをレポートなどで確認する。
と は、ケーススタディについて実技、レポート、ポートフォリオなどで確認する。

【到達目標 3】

ICTを活用して、地球レベルでの「食」をテーマとした交流を行うことができる。

【到達度】

日本および世界の食文化等について適正な情報を収集・加工・発信することができる。

インターネットなどを通じて海外の機関や国際会議などと情報交換ができる。

【教育内容・教育方法】

は、メール、ブログ、掲示板、ホームページ等インターネットによる情報交換に必要な技術や食文化等のデジタル情報を作成する演習を行う。

は、食文化等の交流に関するプレゼンテーションを行い、成果を評価するための体験学修を行う。

【到達度確認の測定手段】

は、情報技術を活用した食文化等に関するレポート、プレゼンテーションにより確認する。

は、食文化等の交流の成果をレポート、プレゼンテーション等により確認する。